

第7回 リレー講座 R5.11.11 (土)

2023年 第7回リレー講座を以下の通り実施しました。多数のご参加ありがとうございました。参加者の皆様の様子をご覧ください。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

日 程 11月11日(土) 13:30~15:00

場 所 C105

担当者 群馬大学共同教育学部附属教育実践センター
教授 安藤 哲也

講義内容 どうする?!「架け橋プログラム」-幼保小の学びをつなげるために-

- ・架け橋期のカリキュラムとは
- ・架け橋期のカリキュラムで支えるもの
- ・架け橋期のカリキュラムをつくる手順
- ・「10の姿」をもとに連携するには



参加者の声より一部抜粋

- ・幼保小の連携については、小学校で教えていてあまり考えてこなかったと思います。しかし、今年、自分の息子が小学校に上がり、その段差を実感しました。保育園では鼓笛をどんどんやって、一番上のお兄さんだったのが、小学校ではとても緩やかなスタートで本人が一番戸惑っていました。「こんなもんなの？」と言ったくらいだったので、やる気をそのまま持ち続けられるスタートアップができるといいです。小学校として考えなければと思いました。
- ・幼保小の連携を目指して、大枠としてどのようなことが求められているか、どのような実践が行われているか（具体例）の両者を知ることができ、学びになりました。指導計画の比較から学びをつなげるという実践に取り組みたいと思います。
- ・高学年を担当することが多いため、小中連携について意識することは多いのですが、幼保小の連携についてはあまり意識したことがありませんでした。今日のお話を聞きながら「下りたくない段差」にハッとさせられました。「なぜ学びが『主体的』なものになりづらくなってしまふのだろう？」「なぜ『自分で考えること』を十分にさせることができなくなるのだろう？」「本当に効率化を求めることが子供たちのためになるのだろうか？」等々、小学校における現在のやり方にたくさんの疑問が浮かんできました。今日、浮かんだ疑問を幼保の先生方と共有し、お互いの思いを話し合う時間をとれるような現場になるとよいなと思いました。
- ・幼保小の連携はできないことをいかにできるようにするかとこのところ目がいっていましたが、「下りたくない段差」というものもあり、支援の大切さというものを感じました。同様のことが、中学校でも起こりうるのではと考え、小学校と中学校の連携も大切だと感じました。
- ・小学校のスタートカリキュラムを意識しますが、幼児期の経験をしっかり知ることが大切であると感じます。子供にとっての「下りたくない段差」の話は、「あるある」と感じました。幼稚園の遊びの経験をさらに活かして学びの連続性を意識していきたいと思います。「架け橋期のカリキュラム」という新しい動きを知ることができました。
- ・5歳から小学1年生までの間での、学校間のつながり（架け橋期）の大切さを学びました。そして、何よりも「経験」したことと「授業のねらい」を結び付けて、小学校からの教科教育に適応させていくような授業の構成は、小学校から中学校へ、中学校から高校へと学校が変わるタイミングで、特に、検討していくことが必要であると思いました。